

令和元年度富山県水墨美術館運営委員会 議事抄録

令和2年2月25日 富山県水墨美術館映像ホール

- 1 開会
- 2 委員長選出
- 3 議 事
 - (1) 平成30年度事業報告・令和元年度事業実施状況
 - (2) 指定管理者の事業概要
- 4 意見交換
- 5 閉会

委員 16名中出席 9名

おもな発言

- ・ 久しぶりに参加した。ポスター等、いつも送っていただいているが、学生などの反応を見ていても関心を呼んでいる。(A委員)
- ・ 企画展など毎回よく工夫されていて、本数も多い。予算を軽減するためもあり、他館と協力して取り組んでいる企画や実行委員会展も多いが、それ故の人的な苦労も多いことと思う。ユニバーサルサービス、バリアフリーといったことにも取り組んでおられるので、参考にしたい。(B委員)
- ・ 年齢層のわかるアンケートなど来館者の声を聞く取り組みをきちんとしており、よく集計されている。さらなるブラッシュアップにつなげてほしい。(C委員)
- ・ ユニバーサルサービスの推進はこれから必要。具体的な取り組みを私も学びたい。説明をお聞きして、企画展や普及活動が本当に充実していると感じた。期待している。(D委員)
- ・ 展覧会はバランスよく開催されている。アンケートなどの取り組みも大切だ。水墨美術館はこれからどう発信していくかが課題だ。「写真撮影 OK」のような試みで話題が広がる現象にも注意していかなければならない。来館者数も大事だが、それがすべてではない。人寄せの企画は人寄せの企画、時々ホネのある企画も必要である。(H委員)
- ・ この数年、イベントも本当に多かった。リピーターの多さは感じる一方、来ない人はや

はり来ないのだけど、とにかく一度来てもらうために何ができるのかなと思う。(I 委員)

- ・ 水墨美術館は頑張っている。中島千波先生のトークは大変面白かった。水墨は地味なジャンルではある。近頃は水墨の本場、中国と連携しにくいのだが、アジアへの広がりにも目を向けていったらよいかも。水墨画ワークショップは、20年もたつと最初のころの児童が大人になって次の段階に入ると思う。がんばって！(J 委員)
- ・ 「また見たい」と思える美術館だ。欠点が少ない美術館だと思うが、若い人をどう呼び込むか。皆さんお話のように「インスタ映え」などへの配慮も必要か。ミュージアムショップで売っているグッズなど、人にあげて喜ばれるとうれしいものだ。「行けば何か面白いことがある」という何かがあるといい。県外の人にも広げたい。(K 委員)
- ・ 動員数というのはたしかに課題。SNS への取り組みは、いい意味でも悪い意味でも世界的影響力を持つので、気を付けて。今までのアートファンと違う層をつかまえるのは大変だが、美術館の使命とは「いかに人間へのメッセージを広げていくか」だと思う。展示室の照明改修は上部の間接照明だけで、続けてケース内の照明まで着手できなかったとのことだが、LED と蛍光灯の光源が混じるのは効果的ではない。水墨美術館が支えている富山県の人気というものもあると思うので、照明改修はぜひ継続してほしい。中島千波の桜の作品の委嘱制作もすごくいい。日本流に翻訳された日本画・水墨画というのを海外へ発信し世界にアピールしていくという考え方もある。多言語化などの取り組みも大切だ。(L 委員)
- ・ 富山には、富山県美術館や富山市ガラス美術館などもあり、バランスや住み分けが難しいことだろうと思う。軸足を水墨に置きながら、工芸などにも目配りしてゆっくりとうまくやれている。存在を発信していくことが大切だが、ポスターやチラシ、ホームページ、SNS と充実してきている。多言語化や、さらにまわりの施設との連携を深めるために WEB のさらなる活用などが課題か。(B 委員)
- ・ アンケートの母数がやや少ないのが気になる。強化月間にはプレゼントを用意するなど、件数を増やす努力を期待したい (J 委員)
- ・ LED の技術も年々進歩していて、今まで見えなかった墨の表情が見えるようになったものさえもある。(H 委員)
- ・ 篁牛人は、今の皇后陛下が水墨美術館に来館された際に深く関心を持たれて何度も質問をされた作家だ。全国へ発信していくのは意義深い。(M 委員)